

前回定例会以降の動き

柏崎市危機管理部 防災・原子力課

1 安全協定に基づく状況確認【6月9日】

新潟県、刈羽村とともに、発電所の月例の状況確認を実施しました。

[主な確認内容]

- 4号機放射性廃棄物処理設備監視制御システム取替工事における電源の誤操作について、原因や再発防止対策の検討状況について説明を受けました。

2 原子力施設における消防活動訓練視察【6月21日】

東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所と市消防本部が合同で原子力施設における消防活動訓練を実施し、訓練の様子を視察しました。

以上

委員ご質問への回答

<品田委員>

【質問】

放射線防護対策を荒浜コミュニティセンターにも欲しいと思っている。今後の放射線防護施設の設置計画はどのようなになっているかお聞きしたい。

【回答】

放射線防護対策施設については、県が内閣府の放射線防護対策補助事業を活用し、原子力発電所から概ね 10km 圏内の社会福祉施設やコミュニティセンターなどの屋内退避施設を対象に整備を進めており、今年度は、PAZ 内にある中通コミュニティセンターの放射線防護対策工事を行っております。

県では、放射線防護対策施設を増やすことが、要配慮者等の防護対策として望ましいとの考えから、事業の対象となる福祉施設等に照会を行い、希望する施設で整備を進めており、引き続き、放射線防護対策施設の増加を図っていく考えであると伺っています。

市としましては、今回の品田委員の意見など放射線防護施設の設置を希望する声を踏まえまして、放射線防護施設の増加を検討してまいります。

<本間委員>

【質問】

2-（1）実効性のある避難計画の策定について

毎年避難訓練をやって、少しずつ規模を拡大しているが、一方で実際の原子力災害が起きた場合を考えるとあまりにも小規模な避難訓練であり、問題点が毎年少しずつ出ている状態である。大規模な避難訓練をやって、問題点を洗い出したらどうか。そのような大規模な避難訓練を行うつもりはないか？

【回答】

訓練の目的は、地域防災計画や広域避難計画などにに基づき、手順を確認するとともに、住民の皆さまに御参加をいただき、実際に原子力災害時における避難などを経験していただくことで、原子力防災に対する理解の向上を図ることを目的としております。

ここ数年間は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加人数を制限して訓練を実施せざるを得ない状況でしたが、今年度はバス乗車人数の制限等は行わずに実施するほか、自家用車による参加人数も増やす予定であります。参加地域の御協力も得ながら訓練を実施し、訓練を継続することで参加の機会を増やし、なるべく多くの方々に経験いただけるよう努めてま

います。

問題点などの抽出とその対応につきましては、様々な想定で訓練を実施し、問題点や課題を抽出し、改善などを図りながら訓練を繰り返し実施しております。今後もこのサイクルを繰り返しながら避難の実効性を高める取組を行ってまいります。